

柔道ルネッサンススピーチ

吉鷹 幸春(金鷲旗 05.7.24)

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介いただきました柔道ルネッサンス委員をやっております、桐蔭横浜大学の吉鷹と申します。

今日は、この準決勝戦前の大事な時間を少しお借りしまして、柔道ルネッサンスについて、私の考えるルネッサンスの活動についてお話させていただきたいと思います。

柔道ルネッサンスの活動は、今や日本国内にとどまることなくフランス、ドイツといったヨーロッパの国々、また中国、韓国といったアジアの国々においてもその内容が理解され、国際的な広がりを見せつつあります。国内におきましては、4年前にルネッサンス委員会が発足し、その主な活動内容としましては、このような全国規模の大会におけるルネッサンスのスピーチ、また横断幕やポスター等を作成し、多くの柔道関係の方々にご協力を呼びかけてまいりました。その結果、最近の柔道の大会における選手の試合態度、試合マナー、また観客席における応援の方々の応援マナーというものは、以前に比べ非常によくなってきたといううれしい声を多く耳にするようになりました。しかし、その一方で、柔道選手、柔道家は、柔道場の中では礼儀正しくマナーも守れているが、一歩道場から外に出ると、ルールやマナーが守れない者が多いという否定的な声があることも確かです。

柔道が他の競技、他のスポーツと大きく異なる特徴の一つとして、柔道は教育的価値、教育的効果が高いということがあげられます。2年前になりますが、全国高校総体、また全国中学大会において参加した選手とその指導者を対象にルネッサンスに関するアンケート調査を行いました。そのアンケートの中の一つに「あなたは、柔道は教育的価値・教育的効果が高いと思いますか」と言う質問に対し、「非常にそう思う」、或いは「そう思う」と回答した人が、選手で90%、指導者では96%でした。この数字から言えることは、柔道に携わる殆どの方が、柔道は教育的価値・教育的効果が高いという認識を持っておられるということだと思えます。嘉納治五郎師範は、晩年「柔道の修業は教育そのものである、柔道から学んだこと、道場で学んだことを社会生活の中で応用し、生かすことを怠ってはならない」と述べています。

話しは変わりますが、昨年、広島でインターハイが行われ、私も会場で試合を観戦しました。試合の途中でトイレに行ったところ、ある高校の柔道部の監督が散乱した多くのスリッパを丁寧に踵からそろえ整頓されていました。私もすぐにお手伝いしたわけですが、最後にその監督が私に言われたことは、「こうゆうことを我々指導者が率先して行わなければ本当の意味でルネッサンス活動は定着しないし、成功はしないでしょう？」私はハッとして自分自身を振り返って、反省させられる思いがしました。

今日ここにられる多くの指導者の中には、柔道と出会い、いろんな刺激を受け、良い方向に導かれて、そして今現在があるといった方は私を含め非常に多いのではないのでしょうか？選手や生徒達にただ期待するだけでなく我々指導者が、或いは柔道に携わる大人たちが今一度、柔道の原点に立ち返って、柔道の精神、道場での精神を忘れることなく行動していけば必ず子供たちはそれを見て成長してくれるものと信じております。

大変生意気な内容で恐縮ではありますが、どうか心の片隅においていただき、そしてこれからも柔道ルネッサンスの活動にご協力を頂きますことをお願いしまして、私からのルネッサンスのスピーチ、メッセージとさせていただきます。

ご清聴有難うございました。